

第6回南九州水産海洋研究集会

「カツオ資源・漁業・利用加工の現状と課題」

日時：2018年10月10日（水） 13：30～17：15

場所：鹿児島大学水産学部4号館23号教室（鹿児島市下荒田4-50-20）

共催：一般社団法人水産海洋学会，鹿児島県水産技術開発センター，宮崎県水産試験場，
鹿児島大学水産学部

後援：枕崎水産加工業協同組合，山川水産加工業協同組合，枕崎市漁協，山川町漁協，枕崎市，
指宿市

コンビナー：宍道弘敏・櫻井正輝（鹿児島水技セ），岡崎 敬・市原 肇・渡慶次 力（宮崎水試），
清藤秀理（水産機構国際水研），中村啓彦（鹿大水産学部）

挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会長） 13：30～13：35
小湊幸彦（鹿児島県水産技術開発センター所長） 13：35～13：40

趣旨説明：宍道弘敏（鹿児島水技セ） 13：40～13：45

基調講演

座長：宍道弘敏（鹿児島水技セ）

（1）カツオの生態と資源動向 清藤秀理（水産機構国際水研） 13：45～14：15
（2）鯉節のこれまでとこれから 西村 協（枕崎水産加工業協同組合） 14：15～14：45

話題提供

座長：清藤秀理（水産機構国際水研）

（1）鹿児島県におけるカツオの漁獲動向 櫻井正輝（鹿児島水技セ） 14：45～15：10
（2）宮崎県におけるカツオの漁獲動向 岡崎 敬・市原 肇（宮崎水試） 15：10～15：35

（休憩） 15：35～15：50

座長：櫻井正輝（鹿児島水技セ）

（3）鹿児島市中央卸売市場における生鮮カツオ取扱量の変遷
加治佐美彦（九州中央魚市株） 15：50～16：15

（4）奄美大島のカツオ一本釣り漁業者からみた近年のカツオ資源
徳田謙治（宝勢丸鯉漁業生産組合） 16：15～16：40

総合討論

座長：宍道弘敏・櫻井正輝（鹿児島水技セ），岡崎 敬・市原 肇・渡慶次 力（宮崎水試），
清藤秀理（水産機構国際水研），中村啓彦（鹿大水産学部） 16：40～17：15

開催趣旨：カツオは古来我が国の食文化を支えてきた最も重要な漁業資源の一つである。300年以上の歴史を誇る鹿児島県の鯉節生産量は21,000トンを超え全国シェア73%で、和食のユネスコ無形文化遺産登録以降、和食の基本である出汁そのものが海外で注目されている。本種は1980年頃から主にまき網漁業によって飛躍的に漁獲量が増加し、中西部太平洋の漁獲量が半世紀で約10倍となった一方、我が国沿岸漁業における漁獲量は減少傾向である。世界的な漁獲量変動や缶詰需要の高まり等により冷凍カツオの国際相場は近年乱高下しており、国内の節・缶詰加工業者は原料確保や商品価格設定等への対応に苦慮している。このように、本種資源をめぐる全体像を把握するには、漁獲から利用・加工、価格形成に至るまで、国際・沿岸双方の視点からの同時アプローチが必要であるが、これまで南九州においてそのような視点で関係者が一堂に会する機会はほとんどなかった。そこで本研究集会では、まず国際・沿岸双方の視点でカツオ資源と日々向き合っている水産業界関係者と行政・研究関係者の間で情報共有、意見交換を行う。次に、今後の資源動向や国際情勢、価格変動等について可能な限り近未来予測を試み、漁業・水産加工業経営におけるリスクマネジメントの一助としたい。